

2014. 06. 18 改訂

2003. 06. 07 改訂

1996. 07. 19 改訂

1989. 06. 07 制定

付記1 引用文献

引用文献の記載は、科学技術情報流通技術基準 SIST 02:2007 を尊重し、以下の様式によること。

〔著者名〕

和文著者名は、姓、名の順に記述する。欧文著者名は、姓、名の順とし、姓と名の間をカンマで区切る。名は原論文中の標記に従い、省略は避ける。著者名は全員記載することが望ましい。煩雑で省略する場合には和文著者名では「ほか」、欧文著者名では「et al.」を用いる。著者が2名でも“……and……”は用いない。

著者が不明の場合は、標題に関する書誌要素から始める。

編者名が記載されている場合には、編者を著者とみなし、そのあとに役割表示「編」、「ed.」（複数の場合、「eds.」）を記述する。

〔文献名〕

引用文献は著者が最終的に参照したものを記載すること。雑誌名の標記については SIST 05 を尊重する。

和文誌名は略記しないで、正式名称で表わす。欧文誌名は、ローマン体で表記し、国際規格に従って略記してもよい。略記名が不明の場合は、略記せずに完全誌名を記述する。

単行本の書名は“ ”でくくること。

ページは、数字の前に p.（半角）をつけて記述する。

インターネットで入手できる資料を参照する場合、入手先のアドレスおよび入手日付を記述する。

〔形式〕形式は下記による。

1. 一般原則

◇雑誌

番号) 著者 1; 著者 2. 論文題目. 雑誌名. 出版年 (西暦), 巻(号), p. 始ページ-終ページ.

{例 1} 江本義理. 文化財と保存環境. 建築知識. 1984, 26(313), p. 122-125.

{例 2} Dillon, Corteny. E.; Lagalante, Anthony F.; Wolbers, Richard. C. Acrylic emulsion paint films: The effect of solution pH, conductivity, and ionic strength on film swelling and surfactant removal. *Studies in Conservation*. 2014, 59(1), p. 52-62.

◇単行書

番号) 著者 1; 著者 2. “章・節の表題”. 書名. 編者名. 版表示, 出版者, 出版年 (西暦), p. 始ページ-終ページ.

{例 3} 登石健三. “胡粉の分離と胡粉層の剥離”. 古美術品材料の科学. 第一法規, 1979, p. 114-115.

{例 4} 沢田正昭. “遺跡・遺物保存の化学”. 考古学のための化学 10 章. 馬淵久夫; 富永健編. 東京大学出版会, 1981, p. 49-68.

{例 5} Dijkstra, Jeltje. “Technical Examination”. Early Netherlandish Paintings. Ridderbos, Bernhard; van Buren, Anne; van Veen, Henk eds. Amsterdam University Press, 1995, p. 292-329.

◇要旨集など

番号) 著者 1; 著者 2. “講演題目”. 報告書名. 開催都市名, 開催年 (西暦). p. 始ページ-終ページ.

{例 6} 山崎一雄. “タイ・ビルマ国境地域出土の白釉緑彩陶”. 第 9 回古文化財科学研究会大会講演要旨集. 東京, 1987. p. 23.

{例 7} 三浦定俊; 早川泰弘; 松島朝秀. “ド・ラ・トゥール「聖トーマス」の科学的調査”. 文化財保存修復学会第 25 回大会研究発表要旨集. 京都, 2003. p. 94-95.

2. 翻訳書

翻訳者名は書名の後に役割を表示して「訳」、「trans」をつけて記載する。著者名. 翻訳書名. 翻訳者. 発行者. 発行年 (西暦), p. 始ページ-終ページ.

{例 8} Thomson, Garry. 博物館の環境管理. 東京芸術大学美術学部保存科学教室訳. 雄山閣. 1988, p. 133-140.

3. ウェブサイト、ウェブページなど

著者名. “ウェブページの題名”. ウェブサイトの名称. 入手先 (入手日付). 著者名が不明の時は、題名から記載する。

{例 9} 9) 中田雄輝; 銚井修一; 岡田健; 蘇伯民; 小椋大輔; 高林弘美; 渡辺真樹子; 長谷隆秀. “敦煌莫高窟第 285 窟壁画の劣化要因の検討～模擬壁画を用いた劣化実験～”. 京都大学工学研究科建築学専攻建築環境計画学・生活空間環境制御学分野銚井・小椋研究室研究紹介.
http://be.archi.kyoto-u.ac.jp/research_a/2012-research/nakata.pdf, (参照 2014-06-11).

{例 10} 10) “迎賓館の改修に関する懇談会運営要領”. 内閣府迎賓館の改修に関する懇談会. http://www8.cao.go.jp/geihinkan/ag_kondankai.pdf, (参照 2014-06-11).

付記2 物理量・記号・数式

[字体]

SIST 08 : 2010 を尊重し、用字用語、記号、符号、単位、並びに学術用語及び学術的名称（動物の学名、病名、化合物名等）の表記は、ISO 等の標準化関連国際組織及び国内組織による基準に従う。

記号を選ぶ場合には、二重の添字を避けることが望ましい。

例： ΔNO_3^- 、 $K_{25^\circ\text{C}}$ の様なものを用いず、 $\Delta(\text{NO}_3^-)$ 、 $K(25^\circ\text{C})$ などとする。

[数式]

数式は左端 2 コマをあけて書き出す。分数式を本文中に入れるときは、 a/b 、 $(a + b) / (c + d)$ のように 1 行に書く。

必要に応じて括弧 [{ (……) }] を用いて混乱を防がなければならない。これは特に、商を表わす斜線 (/) の場合に重要である。

例： $(a/b)/c$ を $a/b/c$ としてはならない。このように、/ を 2 回以上用いるときは、必ず括弧が必要である。

[添字]

二重の添字となるような式の書き方はできる限り避ける。例えば、 $\exp(-\Delta G^*/RT)$ のように記載する。

添字は、上付を \vee 、下付を \wedge で示す。添字の前後関係を明瞭に示すよう注意しなければならない。上付または下付記号としては原則として次のものを用いることができる。

0 (ゼロ), ° (マル), ', ", , *, +, -, † (ダガー), ‡ (ダブルダガー)

付記3 単位

[原則]

国際単位系 (S I) を用いるときには、定義を示す必要はない。S I 単位に属さない単位を用いるときには、原則として論文ごとにその定義を明示しなければならない。その記号は、S I 単位と重複しないように、慣例を考慮して選定することが望ましい。

詳しくは理科年表などを参照すること。

[定義を省略してよい非 S I 単位]

S I との併用が国際度量衡委員会 (C I P M) により認められている S I 併用単位については、定義の記載を省略することができる。

付記4 印刷上の指示

字体等を指定する場合には、下記の要領と記号をもって字体を指定する。字体等を示す記号は、原稿に朱書きで記入する。

[書体]

書体は次のように指示する。

ローマン体スモールキャピタル	下に二重直線
例: Analytical → <u>Analytical</u>	
ボールド体 (太字体)	下に波線
例: Analytical → <u>Analytical</u>	
分析化学 → <u>分析化学</u>	
イタリック体	下に直線
例: Analytical → <u>Analytical</u>	
ボールドイタリック体	下に直線と波線
例: Analytical → <u><u>Analytical</u></u>	

[空白]

空白は、□で指示する。

例: 12.3□mA [大文字, 小文字など]

大文字, 小文字でまぎらわしいもの (例えばCとc, Kとk) は, 大, 小と添書きする。混同のおそれのあるもの, 例えばr (アール)とγ (ガンマ), k (ケー)とκ (カップ), w (ダブルリュー)とω (オメガ), d (ディー)とα (アルファ), o (オー)と0 (ゼロ)およびl (エル)と1 (イチ)などは, その区別を添記すること

[本文の例]

2.2 厚みの推定

上付き下付きの指定。読み誤まりやすい文字にはフリガナで指定。

r_A (既知) と r_A (未知) の2種の厚みを持った同種の金属があるとする。厚み r_A の金属と厚み l_A (既知) の銅板, 厚み r_A の金属と厚み l_A (既知) の銅板とが, それぞれフィルム上で同じ濃度を与えたとする。次の式が成り立つ。

$$r_A = (l_A / l_A) \cdot r_A \dots \textcircled{1} \quad \text{--- Fig. 1}$$

実験では, 既知の部分の厚み r_A は約1.2 cm, これと等価な銅の厚み l_A が0.7 cm, 厚み未知の底部のフィルム濃度に対応する銅厚 l_A が0.4~0.5 cmであった。①式に代入して計算すると底部のX線透過厚み r_A は次の値となる。

$$r_A = 0.7 \sim 0.9 \text{ (cm)}$$

3. 合金の密度

X線吸収係数 μ は, 密度 ρ と質量吸収係数 μ_m の積である。普通使わないギリシ+文字などはフリガナをつけて(キ)と指定する。

注1) この場合, 散乱線の影響を無視できると仮定している。